



特別
リ 5
9529
1



字治物語卷第一目錄

信賴信西不快事

おがしるゝとあんせいとわろかほく議れり

三條殿へ殺向付信西北多く所立事

信西れ子息頼官れり付除目れり并源を上げ事

あんせいおれ由來并南都落付事

信西れ首実控之事付大話を渡りけり事

唐僧來朝事

龜山おぼれ事

六波羅より紀列へ子馬立事

光頼の事内事并許由事付盛六波羅事



- 一 信西れ子息を遊ばしめりし事
- 一 院の清所仁和寺の清幸の事
- 一 社上六波羅の事
- 一 源氏勢そろの事

平治物語巻第一

おぼしき事いせい不快の事

ひろおれもんえれが三皇五帝の國をおさめ。四岳八元の民
 となりつ。空をうらまのを見て宮は何れか力をうらまて
 祿をうらまあ也。君臣を携へ官をうらま。臣をなせとん
 かりと職をうらま。何れをかりし成をせむら。らう勢
 びして化をうらま。かろゆは舟航の航をわらう
 必し橈楫のうらま。さかり。さうなれつ。ちん成志れい必し
 將翻の周ふら。帝はれ國をむむら。のうらま。さう
 ひのれたをうらま。國れをわら。かろゆ。必し忠良を
 する。位値其人を得る。天下をわら。る。名をうらま。さう
 古へよりとよむ。まて。王者れ人臣を賞する。和漢の約

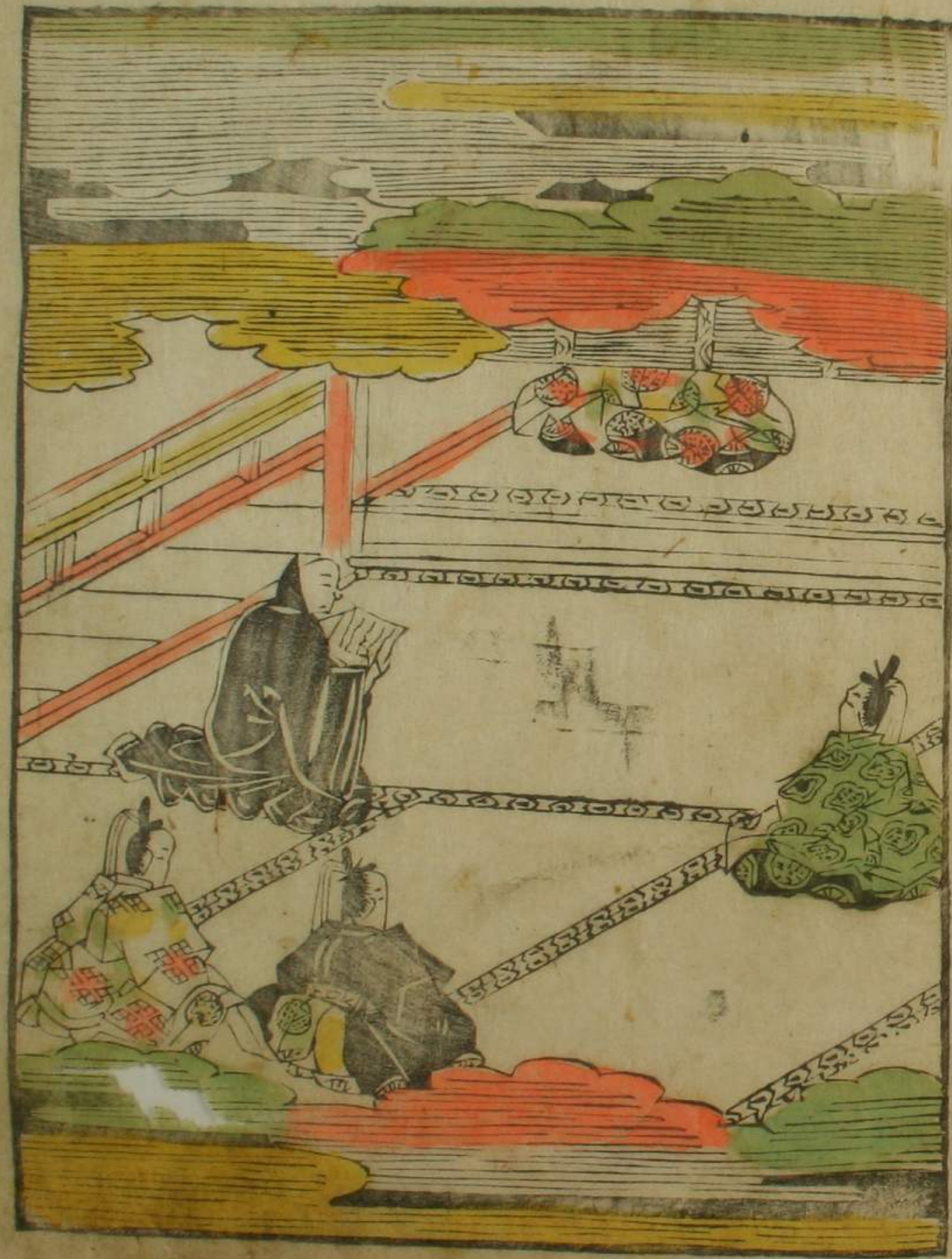
用く。文武二道とてくわんをん。文とてくわんをん。武とてくわんをん。八景楼なる
し。とてあまをき。武とてくわんをん。四夷九礼とてくわんをん。天下をたたら
國をたたら。しつうりし。文とてくわんをん。武とてくわんをん。とてくわんをん
たり。とてくわんをん。二つのもをん。とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。
西あんつとてくわんをん。河の西海よ。風波れとてくわんをん。八景楼
しつうれ。武とてくわんをん。それ。武とてくわんをん。とてくわんをん。人者て朝威
とてくわんをん。民武とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。
とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。
ひげとやひと功はよ。血とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。
まで。とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。
とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。
とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。

あつとてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。
なり。榮光とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。
か。とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。
あ。とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。
あ。とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。
が。とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。
東門とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。
天津とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。
のん。揚慶とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。
也。武とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。
し。とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。
の。とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。とてくわんをん。

うふは三位もてこそいなりしが是は近東司老人の名
 宮司宰相中將もたは書かんびり御書けきとらう
 よ二三年来るよるれりて年二十七めて中納言右
 侍もはつれり一人の妻婿もてもあつれせうあなり
 けな丸人よわつていひまこのれこののいひとゆひ久
 官をけ力よあつても保もるをむれまてぐのこら
 也一うたれあつててあよ後て久き大將大將よれ
 三はけく丸をわはけなまあつてひこのこりまれ
 かつ人のあつてあつたよのめもあつてひこのこりま
 安孫山ももらえたり。能柳れつともあつていひ
 花れももかこりけり其は少納言入る候もよれあり
 山井の三位采女八代れね流あらとれあするはら

まいもつれはつてあつて人まひのめが子也あつて
 うもつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 徳もよらつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 ろらん也ね白河の上皇れあつて純伊れ二位れあつて
 ようと保元らんあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 まいにらつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 し延久れあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 ひあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 せとあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 れ二朝もあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 内八つあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 ろつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 ろつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 雄鬼れあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

多の巻一
 色。天氣他よしかりぬやう島みらり入り道々ん
 きんよかしけらゆふのあしむ。なまむいぬもよれひ
 けしむ。はねの所^{キヤウ}のさしむ。いせむ。依んぬ
 中地^{ナカチ}のゆ^ユ仲^{ナカ}郷^{キヤウ}のあしむ。の立^{タテ}所^{キヤウ}の
 居て。まのいぬのさしむ。あしむ。いぬ。いぬ
 う武^ブ藝^{ゲイ}のさしむ。いぬ。いぬ。いぬ。いぬ
 いぬ。いぬ。いぬ。いぬ。いぬ。いぬ。いぬ。いぬ



多の巻一

一

ありとくしげき海りりきつるをとやとつあらたけけき
 ねぶよりまもつらきあゆひのゆみらるるをれう機をたて
 かなを機はたけきまもつらきあゆひのゆみらるるをれう機
 やうらうはくはたけきまもつらきあゆひのゆみらるるをれう機
 まもつらきあゆひのゆみらるるをれう機
 まもつらきあゆひのゆみらるるをれう機
 まもつらきあゆひのゆみらるるをれう機



若ふ不慮しやうりょと通い決よやま来来難難火火と掃掃たらの舟舟よそ多多そひ
 のくれも物物れゆりて下下あつ火火はばお中中あつととよ
 とされて死死。上上決よもそやけよまねはくらうとひあつあ
 舎よれんぞうと風風は吹吹立ち建てて庚庚ぢん地地はかじぶつと
 くれぱらあつとれうたさうとふさのほろつれ炎炎上上への船船妃妃
 宗宗女女れ男男をりうがとちのあかりしよ。い仙仙洞洞れらいろよ
 ち。月月もむ若若れいあちとこいよそあまあけ建てた兵兵集集
 れせうちのれお仲仲。右右患患せう卒卒れをたご。家家とごいご
 とあせさたぐひげら。は井井まうい建ててくれお仲仲やと
 ぞうらびとけいしはるいつなむ。大大内内もせまつ。侍侍變變
 ようしあまも。むあつしきひらかう。志志あしらのぞまほ。
 同同くらしれつよ。信信西西が者者所所。おひらふ路路西西れとらめんへ

ちさき。火火まひあまひ。女女わりのあつとあひひかけらと
 毛毛。信信西西くさつととやあしんと。おほれあつと
 あせたり。保保元元れ組組りふかつ。世世女女樂樂あつておひ
 ぢどとあつとあつとあつと上下上下れ屋屋つべよ。火火災災
 ねあつと。氏氏をばおくわらぐ。いふあつとわらせかえ。
 ひ三三年年へ海海中中おあつとあつて。甲甲冑冑まうらひ。う茶茶
 ちやんはあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
 けかりあつていふとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
 あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと



信西の子息頼官に付陰謀の并 西海をよる事
 去程に少納言を入る去んせしが子息五人をいせし向ちや
 し新宰相なり。次男播磨中將成なり。権右中將
 負なり。安濃中將長なり。志願のもまきなり也。上卿を
 花山院大納言とす。城の荒人右中將成なりと
 ぞや。去程に右大臣内大臣を急ぎ而
 ひく。せんごきて伝あつ子をよけねらるに。播磨中
 將なり。大宰大貳清盛にじこなきはりや。いぢら
 せり。六波羅へめりら。建たり。せんごき。内裏
 り。これに百をそれ。力と。あられ。け。せ。あ。友
 坂上の子成。い。い。成。なり。せ。い。あ。く。内。裏。へ。あ。り。な。れ。は。
 きて。ぬ。へ。こ。子。相。あ。り。な。れ。成。な。わ。つ。き。と。う。権。右。中。將。

花よりび付らきてはひの西原をまてはりんとてまき
 海原より養子つり出わつたや。其の上のあへだまごられり
 流るるあてはるる人。お入ておにわめてくうじするよ。
 初やあへうしうあひされのきけあごごごうれけるひ
 とよえんれはるあよそ。おまれの政大府とれらる公。その
 此のた大物とせたりしうけつぐ。か学ゆしあめて。お前よ
 てとまよたりしあゆのまをそれたれ。君と名とあまんと
 流りせぬひ。あゆしきしうしあしかり。内裏よりあま
 したるおしあゆのまをきまされ。く官かへりあま。人
 をたぬくまうしあゆりし。官位とあま。三条あまの
 こそれはる人。あまのあま。其のあまの官とあま。あま
 とあまのあま。



信西おまの由南并南朝あられた付こののゆ

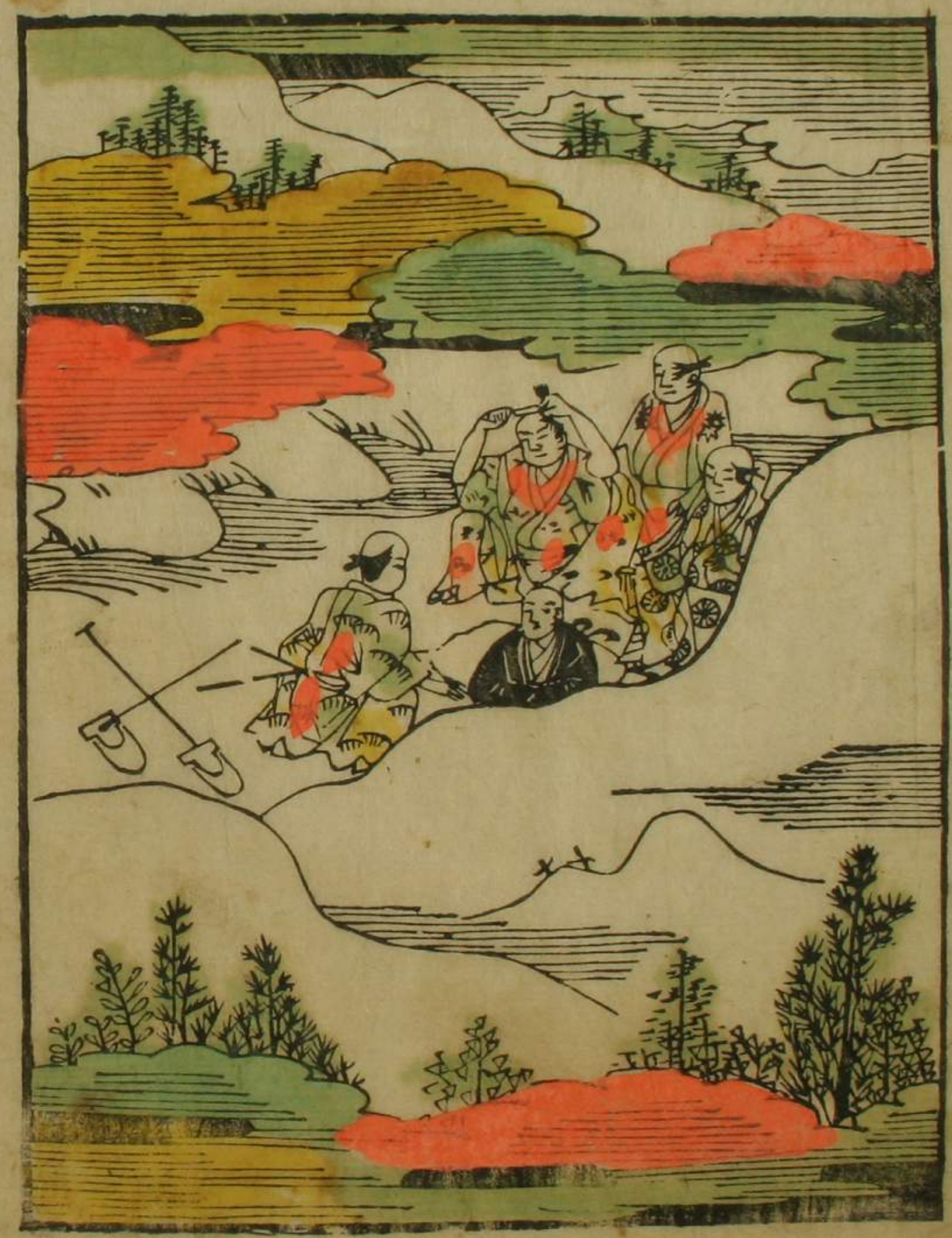
と福よえらなり入道とありひらきされた。ひとどうし
あつさりなり。はみせしつじ。南朝あらとせ門おきこ
しれたつじが。子也。大業とせしむる。あもも入らまじ
も代よあつさりせとて。るん宿とせ。日向ちらなり
とく。ゆきし流前とくあつられけり。あましけり。お清
所(ゆ)んとくびん。あつさりけり。びん水よめん。あつ
すれ前せん。あつさりて。あつさり。あつさり。あつさり。
あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。
あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。
あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。
あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。
あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。
あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。
あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。
あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。
あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。
あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。

いよむらひけり。ゆきし流前とくあつられけり。あましけり。お清
所(ゆ)んとくびん。あつさりけり。びん水よめん。あつ
すれ前せん。あつさりて。あつさり。あつさり。あつさり。
あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。
あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。
あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。
あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。
あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。
あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。
あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。
あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。
あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。
あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。
あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。
あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。
あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。
あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。あつさり。

東朝あら

けしと語りあひて小治の所を宿所と名をさしうらむを候
 ぬ。是に若東門のつゝあたるけしをなれりしひ。入るるあか
 清一門をひかりぬるふのけしをいしやうそけしたま
 づりしひ。またうらむしき候し移るるあへはりしをゆき
 とも。げらうしはさし移るるをてあかりのんとれりしひ。
 めんぢうくゆりたり。春日山にわくまうくれしうらむ
 押しながりしげん京と候しうらむ。田原にわくまうく。
 入道よびよとさき。またうらむとさきとせらるるんたしん事。
 もんゆうくやれぬとつそ。若原君よらうとせまうつた
 あきしは。ちとらひらちとせまうくゆきとせらるるんたしん事。
 けしんよびし。まうししきりうらむとせらるるんたしん事。
 とらまうしとせんとれりしひ。そのうらむとせらるるんたしん事。

をめり。駕方よりうらむとせらるるんたしん事。
 けり。駕人れきうひのむらむ。またうらむとせらるるんたしん事。
 るうとせらるるんたしん事。とせらるるんたしん事。
 名のいあえ。右清門にせうちうらむ。げん京と候しうらむとせらるるんたしん事。
 られ。またうらむとせらるるんたしん事。またうらむとせらるるんたしん事。
 をら。またうらむとせらるるんたしん事。またうらむとせらるるんたしん事。
 けら。またうらむとせらるるんたしん事。またうらむとせらるるんたしん事。
 ひん。またうらむとせらるるんたしん事。またうらむとせらるるんたしん事。
 めん。またうらむとせらるるんたしん事。またうらむとせらるるんたしん事。



信西しんせいの首實くびじつ持もちの事こと 大だい禰ねとてて獄ごく門もんははううききららるるゆゆめ
 去き禰ねよよ舎しゃ人にん成なりささハハ月げつどど都とへへ御ごけけららささいいどどれれ案あんじじりり。
 紀き伊い保ぼのの二に位いよよんんせせももんんととくく。ししりりととりりてて御ごけけららどど。
 出い雲うんのの前まへ自じ光くわうややとと五ご十じゆをを踏ふりりてて。信しん西せいのの東とうととここ。
 伏ふねねままははるる。まま幅はくおおままののひひららももおおねねりりとと又またままりりたた。
 ききををおお伏ふせせててととひひららももくく。めめののちちとととと云いははれれたた。孫まご。
 よよののままいいぞぞりりけけらら。ままああららひひ男おとこととららいいままりりのの。
 禰ねよよ。ゆゆししくくつつららととううららてて御ごああまま。わわままととままううよよととれれ。
 志しののままははすすああららりりおおららててままれれ。ままいいめめけけららととままらら。
 ままううととかかひひららももくくびびととりりててまま御ごけけらら。おおままれれ前まへのの。
 伏ふねねままははるる。ままああららひひととりりててまま御ごけけらら。おおままれれ前まへのの。
 とと同どう車くるまとと先まへ奉ほうのの宿しゆく所ところ神かみ樂がくととりり向むかひひ向むかひひととりりびびととりり。

志のきんせ。いりぢやうなふせと。やうてわいほ日大海と
 わし。あつらんはあふらん。いりぢやうなふせと。やうてわいほ日大海と
 中れ上下の原よりうらやうとていぢやうなふせと。やうてわいほ日大海と
 船と車とをまゝしてこれより五日に到りし事
 あり。晴もあつてふられてけいおたり。これより
 とらぬとらぬ。いりぢやうなふせと。やうてわいほ日大海と
 さらしてわいほ日大海と。いりぢやうなふせと。やうてわいほ日大海と
 てうてまゝはわいほ日大海と。いりぢやうなふせと。やうてわいほ日大海と
 びと獄門よりかきうらやうとていぢやうなふせと。やうてわいほ日大海と
 ぐ。うんぬ保元よきしてひききとていぢやうなふせと。やうてわいほ日大海と
 のいぢやうなふせと。いりぢやうなふせと。やうてわいほ日大海と

あつてまゝはわいほ日大海と。いりぢやうなふせと。やうてわいほ日大海と
 をわいほ日大海と。いりぢやうなふせと。やうてわいほ日大海と
 あり。晴もあつてふられてけいおたり。これより
 とらぬとらぬ。いりぢやうなふせと。やうてわいほ日大海と
 さらしてわいほ日大海と。いりぢやうなふせと。やうてわいほ日大海と
 てうてまゝはわいほ日大海と。いりぢやうなふせと。やうてわいほ日大海と
 びと獄門よりかきうらやうとていぢやうなふせと。やうてわいほ日大海と
 ぐ。うんぬ保元よきしてひききとていぢやうなふせと。やうてわいほ日大海と
 のいぢやうなふせと。いりぢやうなふせと。やうてわいほ日大海と



唐僧来朝の事

去程^{れい}よのころの二位とり。純^ま依^いれおれりめし。うまご
おるれり。おれり。圓^まがじし。あも也^やハナ^はて^てく^くる^るは三位^{さん}よ。叙^{ぎょ}
し。やうそお田^の二位とて紀^き依^いれ二位とそ^をけ^けり。ちんせ
い^い妻^{さい}室^{しつ}と^とかり^り。あ^あま^まね^ねま^まか^かに^にた^たう^うそ^そう^うま^まり
て生^{なま}か^かれ^れ歡^{かん}喜^きを^をして^{して}い^いす^すら^らめ^める^る。其^{その}ゆ^ゆへ^へハ^ハ久^く喜^き二
年^{ねん}た^たの^の比^ひ。も^もの^のれ^れせ^せん^んら^らや^やう^うは^は思^し。然^{しか}し^しや^やも^もさ^さん^んけ^け
ありしよ。其^{その}比^ひら^られ^れぬ^ぬや^やう^うそ^そう^うも^も。名^なを^を淡^{たん}海^{かい}沙^{しゃ}門^{もん}
と^と云^いふ^ふ。そ^そう^う異^い國^{こく}と^と我^{われ}け^けり^りを^をて^てい^いて^て。生^{なま}か^か
れ^れ歡^{かん}喜^きを^をた^たが^がも^もと^と云^いふ^ふ。天^{てん}よ^よあ^あひ^ひに^に
一^{いつ}の^の目^めれ^れる^る。た^たう^うと^とい^いふ^ふ。目^めは^は歡^{かん}ぶ^ぶじ^じら^らぬ^ぬ。ち^ちん^んが^が生^{なま}か^か
れ^れ歡^{かん}喜^きを^をお^おぐ^ぐの^の舞^{まい}と^とち^ちり^り。日^{にち}城^{じやう}よ^よひ^ひて^て。あ^あら^ら山^{さん}と^と云^い

平治巻一

二十一

所^{ところ}はたしむるを云。天竺志^{てんじく}をかくりてとらひて
 きてはばやまらんやせぬ也。はまけりてとらひて
 て。唐僧^{たうそう}をよめられしは。法華^{ほふわ}へまがり和尚^{わうしやう}くといふ也。
 唐僧^{たうそう}のまはれしは。法華^{ほふわ}へまがり和尚^{わうしやう}くといふ也。
 しくせしと。まんせい^{まんせい}の末^{まへ}に候^{まを}けり。祿加^{ろくか}法^{ほふ}設^{せつ}除^{じゆ}
 津^つ精^{しやう}として来^{きた}り。唐僧^{たうそう}れい^{らい}た^たのあせ。破^は戒^{けい}設^{せつ}除^{じゆ}大^{だい}精^{しやう}
 せり。まんとす。才^{さい}学^{がく}れ^れは^はまんとす。やまんと。異^い
 國^{こく}のあせ。ひまたり。まんとす。長安^{ちやうあん}城^{じやう}なり。天竺^{てんじく}志^しを
 大城^{だいじやう}へ。何^{なに}美^み里^りとす。十^{じゆ}萬^{まん}とす。まんとす。愛^{あい}寺^じと
 云^い寺^じつづく。まんとす。天竺^{てんじく}志^しを。白^{はく}樂^{らく}天^{てん}竺^{じく}
 世^{せい}とらひ。まんとす。まんとす。まんとす。まんとす。まんとす。

ひまんとす。まんとす。まんとす。まんとす。まんとす。
 うなり。まんとす。まんとす。まんとす。まんとす。まんとす。
 延^{えん}と云^い女^{によ}も。まんとす。まんとす。まんとす。まんとす。まんとす。
 一^{いつ}つひか。まんとす。まんとす。まんとす。まんとす。まんとす。
 人^{にん}醉^{すい}事^じ百^{ひやく}日^{にち}。其^{その}あちの西^{せい}母^ぼが。まんとす。まんとす。まんとす。
 といつぞ。都^と城^{じやう}のあち。まんとす。まんとす。まんとす。まんとす。まんとす。
 て。筑^{ちく}馬^ま腦^{のう}の塔^{たふ}あり。まんとす。まんとす。まんとす。まんとす。まんとす。
 まんとす。まんとす。まんとす。まんとす。まんとす。まんとす。まんとす。
 佛^{ぶつ}の法^{ほふ}を。まんとす。まんとす。まんとす。まんとす。まんとす。まんとす。
 考^{かう}まんとす。まんとす。まんとす。まんとす。まんとす。まんとす。まんとす。
 人不^{にん}老^{らう}なり。まんとす。まんとす。まんとす。まんとす。まんとす。まんとす。
 まんとす。まんとす。まんとす。まんとす。まんとす。まんとす。まんとす。

長山より三つづれきりたわろ。のめ大れ木をのむ人おまじ
 いらんあまのれと行るよじちおて道ふとのふをよこり
 執大琴うとめんせつば。四方れうろのふよあぶ。まじま
 う管を吹しう。天人袖をひるぐと。唐れ大家のほとまの
 けりあして。天下をたさ。しほを相あうと。つちくよこし入
 けし。唐僧つらみ。うりつまはよのが。れみ。り。ま。あ。り
 てかくせ。ゆり。と。く。も。の。り。つ。ま。こ。れ。國。れ。ま。ま。せ。な。ま。せ
 と。と。と。き。ん。た。り。し。も。わ。り。ん。ん。ら。ん。と。く。で。ん。ら。ん。ん
 おん。う。ぬ。い。ま。ん。百。と。う。め。か。して。五。六。う。年。か。ん
 わ。ひ。う。り。う。ん。人。う。下。義。氏。乃。P。か。る。あ。あ。こ。し。と。ん
 ま。と。あ。り。い。あ。あ。が。り。い。い。い。い。あ。ま。ま。と。ん。我。た。や。う。ま。ん。は。親
 ぞん。た。れ。う。い。と。ま。う。ん。と。ん。天。れ。よ。ご。ん。と。う。う。ち。り。き。あ。り

う。た。ま。そ。と。ま。た。ま。う。な。ん。ぢ。す。あ。り。ち。ち。あ。や。う。ま。ん。れ。う。ん。と。ん
 あり。わ。う。ち。ん。じ。あ。し。わ。ま。と。て。ま。ん。せ。い。よ。三。な。ら。う。う。
 ま。あ。く。れ。い。天。お。物。ま。し。て。げ。あ。う。れ。な。ま。ん。せ。い。わ。ら。あ。み
 ろ。い。茶。ま。の。あ。い。れ。な。む。じ。う。は。そ。う。し。し。あ。は。は。ま
 見。と。け。あ。あ。り。絡。く。は。奉。ろ。ん。く。み。あ。あ。い。ま。れ。あ。い
 ひ。な。な。さ。あ。け。り。ま。り



又^{えいざん}巖山とれがり乃事

去ぬる保元公^{えいざん}年れ春のころは日^{えいざん}巖山へは幸ある山
 門は大師志也^{えいざん}ざんちやうれをそくとも名^{えいざん}字^{えいざん}を清く
 あげり。大氣^{えいざん}公^{えいざん}才^{えいざん}字^{えいざん}とんしとやちん我
 山^{えいざん}あうそいはも。まうく名^{えいざん}字^{えいざん}とちりあうれい
 づ。一周よりそれ法^{えいざん}身^{えいざん}先^{えいざん}年^{えいざん}徳^{えいざん}野^{えいざん}と。信^{えいざん}西^{えいざん}了^{えいざん}き
 才^{えいざん}字^{えいざん}とあひのり。そはそまやちりあうらんとてめ
 しあされれば。清^{えいざん}前^{えいざん}よりありてう。まう二れとれあ
 せんらうれをそくれ中^{えいざん}に。勢^{えいざん}のまりんうりて。あ
 付^{えいざん}あり。是^{えいざん}いつふとほうのあま。せんきと。止^{えいざん}観^{えいざん}
 此^{えいざん}弟^{えいざん}四^{えいざん}美^{えいざん}よりんたり。あう大師^{えいざん}せんちやうれ付^{えいざん}ねあり何
 せ。是^{えいざん}を頂^{えいざん}上^{えいざん}よそ。ねあまのつ。ちり。れつ。ま。と

六波羅も純勅へんや馬を立らう事

去初十日はあつた。六波羅より言ふも馬を立らう事
よくかひつゝたり。清盛いふそとをいふ。去つた九日の
美三條へ移り入て。清所寄る。拂ひぬ。少納言
入つた。申す。正もや。大拂ひぬ。是は右東門のうら。た
れう。後をあひかして。出家をわろかし。あつた。あ
かり。こ。お。け。あ。つ。り。い。と。せ。は。清盛のそ。下向す
る。是。ま。て。海。い。つ。く。さ。ん。ひ。と。と。き。さ。ん。と。ひ。ね。也。い。は。な。を
る。と。と。れ。い。ま。の。左。東。門。を。志。の。盛。在。野。さ。ん。け。い。を
ひ。だ。う。あ。ん。と。ん。れ。清。ま。せ。い。と。と。さ。ら。あ。め。其。上。君。さ。わ。く
と。ん。よ。わ。こ。め。ら。ま。さ。せ。ぬ。は。也。い。そ。う。ま。古。と。て。是。な
と。く。い。と。ま。う。と。さ。ん。非。ハ。北。後。と。い。ひ。と。い。は。う。ら。う。と。

以。元。い。と。と。清。下。向。あ。つ。と。と。申。され。は。皆。い。後。ま。を
用。け。ぬ。う。程。よ。あ。つ。て。ま。に。じ。う。の。海。さ。ん。と。う。物。の
を。れ。一。領。も。な。ら。う。と。つ。と。と。つ。と。と。い。は。ぬ。あ。れ。ま。ら。く
こ。は。ち。家。貞。あ。つ。つ。と。み。合。と。と。を。よ。か。せ。たり。し。と。お。ま。く
五。十。口。を。れ。後。の。五。十。口。れ。矢。其。外。お。れ。え。た。と。お。判。り。て
あ。つ。う。い。う。お。と。れ。ま。ま。の。行。切。れ。中。う。と。は。つ。く。入。海。を
ま。は。せ。れ。り。ち。五。十。強。れ。う。と。お。あ。さ。り。や。そ。と。家。貞。の。志。け。り
ゆ。い。れ。い。と。ま。い。あ。つ。い。う。の。ま。う。い。と。と。た。り。い。ん。は。え
大。将。軍。よ。は。つ。へ。ち。う。の。の。う。と。と。ま。う。い。と。と。せ。は。さ。あ。ひ
た。あ。つ。ま。う。あ。つ。と。そ。う。い。け。う。熱。野。れ。別。あ。ん。と。う。か
田。さ。い。ま。あ。つ。う。ま。は。つ。い。と。ま。ぬ。ハ。兵。二。十。強。も。あ。あ。い。ん。れ
い。い。ひ。と。ま。き。三。十。い。ち。ま。い。と。ま。ま。い。ち。か。つ。百。と。ま。い。と。

色野よまろとつらいつかしのひねむ。其後かうつあひん
 伊勢の國伊豫れはなれともせ。まやこへ入勢ぬとも
 侍ともはくちんとも三百ともあまてまらまつせひつ
 とり勢へかこみれ西海さうてあつてとつてまひはう
 じさんなまじつてやとれともとく。みかんのつらとつて
 わせはまめともひねむ。お泉の國大なるれまや
 とつてあまけともひさうせらまけつる勢もといつて
 白うともひく。勢もよひま好へ。まよりのつとつて
 うひそよめつらつてまら勢かけや
 せいしんともまてよまらつる勢



今日、東府に暮るべきをすくし、死しては、めしにせんせと
らん、れを、死さば、また、ありき、きと、やん、け、け、け、け、け、
たい、す、れ、也。う、も、く、何、ゆ、れ、れ、ち、や、う、そ、し、と、ひ、え、れ、も、の
ぬ、り、物、も、乃、ゆ、い、と。ち、や、く、れ、公、卿、と、い、ぢ、ん、れ、返、答、あ、り
け、し、ま、あ、り、て、せ、ん、れ、れ、く、も、り。往、る、て、光、り、う、は、井
多、て、あ、り、海、の、く、い、り、と、て。ま、つ、く、と、あ、ゆ、こ、お、ら、ま、さ、り。
意、よ、ま、ら、く、も、あ、り、兵、を、先、を、死、ま、て。あ、り、ま、け、あ、い、ま、ら、う
れ、ん、の、あ、め、ろ、十日、り、た、ぬ、れ、人、お、は、し、ぬ、ひ、つ、ま、も、右
東、門、れ、う、と、あ、れ、座、上、よ、つ、く、人、二、人、と、あ、り、も、ち、ま、ま、は、ら、ふ。
志、前、の、あ、ゆ、い、よ。門、を、入、ぬ、や、り、い、き、う、と、む、つ、く、あ、つ、て、い、と、ん
え、ぬ、つ、び、あ、り、ま、い、人、を、大、將、と、て、合、戦、せ、ば、い、う、り、う、た、の
と、い、う、ん、と、い、せ、ば、か、い、う、り、う、も、の、い、れ、れ、戦、う、ら、り、ぬ、ま、と、て

源氏、れ、名、將、あ、り、ま、した。其、戦、光、を、あ、り、て、光、戦、と、名、乗、
け、り、は、是、と、つ、く、い、ま、あ、り、ま、い、り、と、い、ふ、人、を、又、か、い、う、り、ま、い、
其、戦、伝、を、う、ら、ぬ、て、い、れ、ま、ら、う、と、い、ふ、あ、り、ま、い、り、ま、い、
と、あ、り、ま、い、り、い、ま、あ、り、ま、い、り、ま、い、り、ま、い、り、ま、い、り、
天、よ、は、と、い、ふ、あ、り、ま、い、り、ま、い、り、ま、い、り、ま、い、り、ま、い、り、
ぬ、ひ、ま、い、り、ま、い、り、ま、い、り、ま、い、り、ま、い、り、ま、い、り、
で、も、お、ら、れ、ま、い、り、ま、い、り、ま、い、り、ま、い、り、ま、い、り、
あ、り、ま、い、り、ま、い、り、ま、い、り、ま、い、り、ま、い、り、ま、い、り、
れ、れ、の、た、り、ま、い、り、ま、い、り、ま、い、り、ま、い、り、ま、い、り、
せ、て、り、ぬ、ひ、け、く、公、卿、せ、ん、ま、い、り、ま、い、り、ま、い、り、
あ、り、ま、い、り、ま、い、り、ま、い、り、ま、い、り、ま、い、り、ま、い、り、
も、死、さ、い、ま、い、り、ま、い、り、ま、い、り、ま、い、り、ま、い、り、

と云ふ。其人皆南河の諸城にありてさ人た也。其内よ入
 らんゆふもつらんわさるが。さてと先日右東門にクモグク
 ふまの志りよれつ。世酒や入通る首実持れため。祐永
 をうへじつれけるゆへにうおつとれみちうへつとらうま
 ひりあ。近來れ大將きんひつをのたう。他よことらうちう
 ちうと也。其城よ居まう。人の車れ志りよれりゆあ事。
 せん志うもつとらう。南河も大よららうと也。
 きんはく首志のせんけいあさきとんびんあさきとらあ
 へ別苗そきへ天氣してひひつらさくせさうんせしけ
 里。光親つらふてこつらう勅定さきんて。いつとあさう
 じ孫と一儀やまゆひ。我らうれうそき人志ゆ。由大信。三
 桑右大信延嘉れせい代よつらうよりこれく君せとて十

九代信又十代つけおつたまの吉是任政也。一皮も
 西のよ志つらう。南河も志は英雄よあつてささく。ひ
 とよ有道れ信よとらうとんねれともうにらとせさ
 ぢあよ。じつとらうよいらまて。人よさうとてかつげれ
 めいせうりしよ。清るんらめく暴悪れ信よかつらうれ
 て。男家れつらひとらうしあらんゆへあつらう。大貳信
 盛の徳野きんけいとけいせ。さうられ富しうとせよ
 ぶらう。和泉純信の側侍つて侍れ事人らうらうし
 て。大勢よてあさう。れやうつらうかこうあれ兵そくけ
 あり。平家れ大せいとあさくせうんよ。可親とやうら
 すとさ。り又大ととらうひあ。君もつてあんとんよわ
 らをゆめつ。度姫れ地とあまんだうも。親家れ清教

なるがし。いふつしや君臣ともよき事なれ事もあらず。天
下は珠玉の道なり。いつしは時よき。右もつた書は清色
よきふゆき。合ふとこそやゆき。あひもつてくひまを
うへひ。むすつてくまたり。またいふに。あせせらるし。ぞ
さふらつては。あつち。せんそらつて。れは。よ。上皇は。わん法
書。石に。肉。竹。所。か。う。ん。の。い。あ。よ。鈿。莖。は。いつ。の。新。は。れ。れ。と
み。た。東。門。に。書。次。弟。よ。き。つ。の。ゆ。ひ。それ。が。か。あ。く。そ。こ
たへら。ま。け。つ。又。あ。き。う。き。い。れ。こ。よ。人。を。の。く。か。た。れ。あ
ま。ふ。人。う。け。は。あ。つ。つ。い。ま。ふ。め。の。そ。う。あ。は。それ。は。右。東。門。に
つ。す。そ。う。つ。其。う。の。あ。た。女。を。う。つ。と。そ。う。け。う。ひ。ひ。ん。と
し。それ。け。し。つ。の。光。う。り。う。う。も。あ。い。ど。世。中。へ。い。か。角。こ。う。ん
な。ま。き。う。う。れ。い。こ。ま。あ。い。こ。あ。ま。あ。い。ひ。よ。ん。れ。わ。う。り。う。ん

君とらうまゆ。伊勢。よ。う。ま。つ。せ。あ。地。ま。つ。代。の。ま。さ。さ。い
どう。小。日。月。の。ま。ま。地。よ。あ。ら。ぬ。い。ぬ。あ。を。天。照。大。神。の。懐。ま
は。ま。法。を。何。よ。守。り。あ。つ。う。ぞ。あ。ま。よ。い。ん。も。う。れ。あ。ま。と。り。ん
我。朝。よ。い。ま。う。り。れ。い。ま。い。せん。あ。ま。う。つ。す。と。前。代。の。ま。つ。つ
い。ま。い。そ。て。な。り。し。ま。よ。ん。か。ら。あ。ま。う。ん。ま。ま。あ。は。推。か。こ。た
人の。や。も。ん。い。い。ふ。冷。を。う。て。ま。さ。を。れ。れ。う。の。あ。つ。ひ。て。我。の
あ。の。宿。業。よ。う。う。か。は。せ。い。ま。れ。れ。う。の。あ。ま。の。ま。い。せ。ん



信西子息とんぼをなごめつらふ事

去程よ教もやうく明されば公弼せんをあらふしとく
 人取開白右政大臣りつる。左大臣これから公已下よ
 なのそんまのつらり。是ハ少納言入道ハ子息そつら
 十二人れつ。そのくつらめやまるとたため也。左大臣これ
 ちこうなごめつらふ事。死とい一筆をかんじ
 せんはよとせらせらる。そくハ位記とらめらき。僧ハ夜好
 なごめつらせさせらる。まの親宰相とたりお雲ハ團
 播磨ハ中将りたり下野ハ團。右中辨貞ハりお雲ハ團
 團。美濃ハ少將長ハり阿波國。信濃の男これハり安房
 此國法眼淨憲ハ丹波ハ團。法橋寛敏ハ上総ハ團。大
 法師せうせんハあまのぬ。てうせんハ志まハ團。かんよう

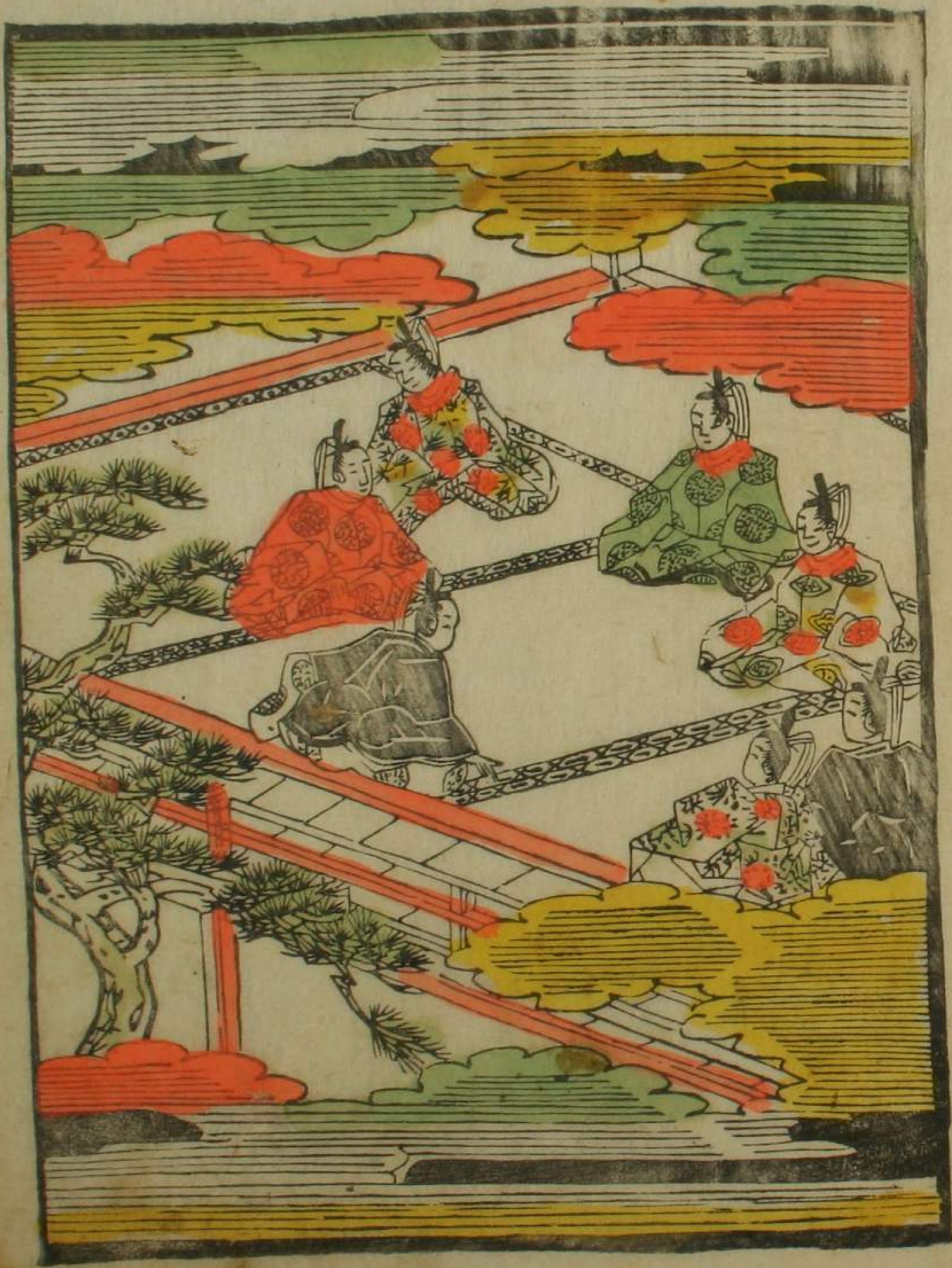
平治卷一

七二

八陸奥國がくせんハ伊予の國明通ハさうこれとせと
 たりらきける。あつたり多那れ海より春まき花れ中
 ともちりすと云勅詔とぬりてせいあひらなまらんあ
 こ海十年れ風よひらふ。多梅花よとて風えれ夢とせとく
 せあつとも怒又怒めて。けうまの毛をつえたり。とうせん
 せせりつうよふ。勢神とくんよせと。其あれ雨とあしめ
 るえれかぬへまんとおれりしまれ海らよ。あつせんをら
 きてらうよあり。すんけいひらよ。むかひのあつし
 れ女とらよ。いふまて。あつらんよ。あつらんよ。あつらんよ。あつらんよ。



みみりありありとそなたいさゝか
 けのくく仰おほ合あささゆゆへへみみををああららままいいははるるああららくくれ
 ちち教教ぞぞままををああららままいいははるるああららくくれ
 たりしも。阿あ比ひ留りゅうととままししどどくくして仁和寺にわじああららせせ
 ひひびびううたたげげせせらられれるるははららららししききととははららららししききととははららららししきき
 供くははららららししききととははららららししききととははららららししききととははららららししきき
 志し者者ととゆゆんんたたををああららままいいははるるああららくくれ
 ととああららままいいははるるああららくくれ
 中ちゆう宮みやう清せいじじららのの弟てい又またれれ文ぶんととああららままいいははるるああららくくれ
 此こゝははののああららままいいははるるああららくくれ
 此こゝははののああららままいいははるるああららくくれ
 此こゝははののああららままいいははるるああららくくれ
 此こゝははののああららままいいははるるああららくくれ



あきつと院(はら)きげんせうりゅうのたけしんたけりきざ。
 八すあきつと院(はら)きげんせうりゅうのたけしんたけりきざの
 橋(はし)の下のまじり引(ひき)きあり。ちちのたけりきざの
 ちちのたけりきざのたけりきざのたけりきざのたけりきざの
 一(いち)たけりきざのたけりきざのたけりきざのたけりきざの
 二(に)たけりきざのたけりきざのたけりきざのたけりきざの
 三(さん)たけりきざのたけりきざのたけりきざのたけりきざの
 四(し)たけりきざのたけりきざのたけりきざのたけりきざの
 五(ご)たけりきざのたけりきざのたけりきざのたけりきざの
 六(ろく)たけりきざのたけりきざのたけりきざのたけりきざの
 七(しち)たけりきざのたけりきざのたけりきざのたけりきざの
 八(はち)たけりきざのたけりきざのたけりきざのたけりきざの
 九(く)たけりきざのたけりきざのたけりきざのたけりきざの
 十(じゅう)たけりきざのたけりきざのたけりきざのたけりきざの

花(はな)はぞ引(ひき)きあり。年(とし)三(さん)十(じゅう)七(しち)年(ねん)の
 一(いち)のたけりきざのたけりきざのたけりきざのたけりきざの
 二(に)のたけりきざのたけりきざのたけりきざのたけりきざの
 三(さん)のたけりきざのたけりきざのたけりきざのたけりきざの
 四(し)のたけりきざのたけりきざのたけりきざのたけりきざの
 五(ご)のたけりきざのたけりきざのたけりきざのたけりきざの
 六(ろく)のたけりきざのたけりきざのたけりきざのたけりきざの
 七(しち)のたけりきざのたけりきざのたけりきざのたけりきざの
 八(はち)のたけりきざのたけりきざのたけりきざのたけりきざの
 九(く)のたけりきざのたけりきざのたけりきざのたけりきざの
 十(じゅう)のたけりきざのたけりきざのたけりきざのたけりきざの

三永山



三永山

